

# PHP新書「地震予報」読者の皆様へ No.1778長期継続大型地震推定前兆 原稿校了後の前兆変化についての続報

## 続報 No.324

2022.04/28 (木曜) 12:00 発表

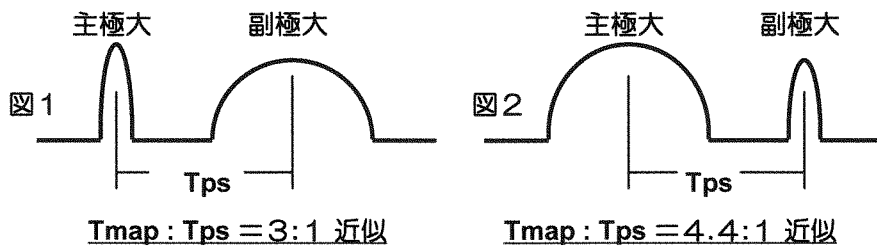
八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

### 昨年8月に極大認識のCH29・K1 共に特異変動継続中 少なくとも7月末以前に対応地震の発生は否定可能

### CH32等の櫛歯変動値変化をひとつの指標とした場合

### 8月末以降発生の可能性検討中

Tmap : Tps = 平均 3.7 : 1



主極大・副極大型 前兆変動の極大形態による比率経験則

Tmap=主極大～地震発生までの日数 Tps=主極大～副極大の間隔日数

HP続報前号ではNo.1778長期継続前兆変動の対応地震発生時期を6月初旬の可能性を検討中と記しました。E-mailとファックスで日々配信しております観測情報では既に修正内容を報告済ですが、HP続報では遅くなりましたことお詫び申し上げます。

4月初旬段階までは図3に示す八ヶ岳のCH32 (CH12,23,29同期)の櫛歯前兆変動(震源が浅い地殻地震又は群発地震の特有前兆変動)の変動値変化が主・副極大型変動を示していることから、主極大を変動値最高値の2022年1/2.9とし、副極大を2022年2/15と認識し、主極大より副極大の方が数日高い値が長いことからTmap:Tps比を3:1近似として計算していました。しかし、昨年8月に極大があるCH29(八ヶ岳)とK1(高知観測点)の特異変動が終息せず、CH32櫛歯変動値変化から推定される時期と合わなくなりました。

改めてCH32櫛歯変動値変化を見ますと、主・副極大型前兆変動の特徴として沢山の小ピークが認められますが、主極大認識の時期には大きな山型変動となっており、副極大は突出して短期間のピークを形成しています。そこで、2021年12/5～2022年1/4期間の山型変動の中心である2021年12/20を主極大、2022年2/15を副極大とし、主極大が緩やかな形で副極大が鋭い形(図1、図2参照、両極大が均等の場合はTmap:Tps=3.7:1)と再認識しますと、Tmap:Tps=4.4:1近似となり、8月末～9月上旬時期の発生の可能性が示唆されます。

主・副極大経験則はBF変動が主で、櫛歯変動の過去例はありませんが、CH32櫛歯変動値変化をひとつの指標とした場合、8月末～9月上旬が示されますので、CH29・K1が計算上の終息時期5月下旬に終息するか確認して続報予定です。

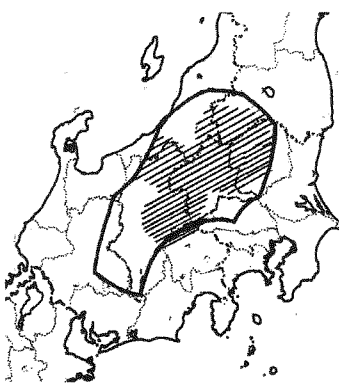
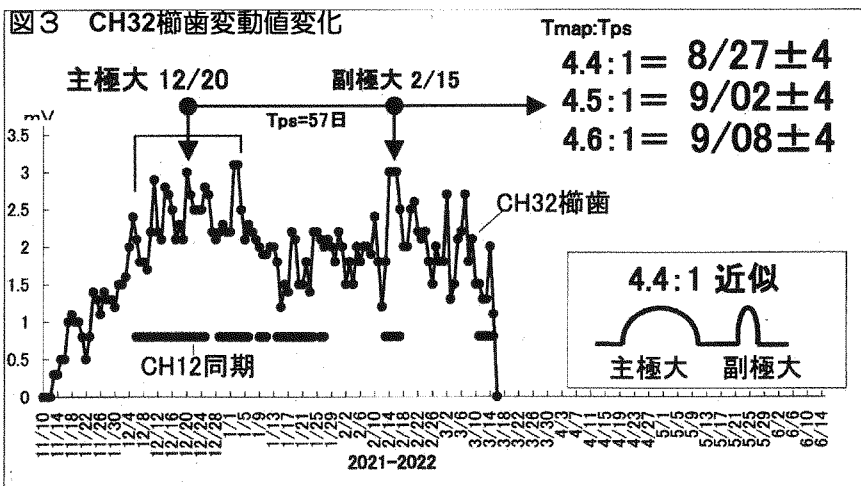


図4 推定領域図

- ◆推定領域：図4太線内領域内 火山近傍  
斜線域=可能性考え易い参考推定領域
- ◆推定規模：M8.0±0.3  
地震に伴う近隣火山の噴火=直前の噴火  
前兆の有無を確認するまで不明。現状無し
- ◆推定時期：8月末以降の可能性検討中  
今後の観測で修正の可能性有
- ◇推定地震種：震源浅い陸域地殻地震
- ◇推定発生時刻：AM 9:00±2 又は  
PM 5:00±2